

令和2年度第1回 大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会議事概要

日 時：令和2年10月5日(月)
午後1時00分～午後3時15分
場 所：大野市役所2階 大会議室

1. 開 会

2. 報告事項

1) 令和元年度に実施された水循環に関する主な取組について

○配布資料に沿って、大野市の取組、九頭竜川ダム統合管理事務所の取組、福井県奥越土木事務所の取組を報告

2) アンケート調査結果（第三期大野市環境基本計画）について

○配布資料に沿って、次期大野市環境基本計画の策定に先立ち実施されたアンケート調査結果について報告

3. 協議事項

大野市水循環基本計画原案（案）について

○作成中の計画原案（案）に関し、策定目的、計画の位置付け、現状と課題、基本理念、基本理念を実現するための基本方針及びその施策、評価項目について説明

【主な質疑・意見】

- 計画全体として、現状と課題、理念、指標など論理的に整理されている。
- 各評価項目と関連する施策がわかるように整理するとわかりやすい。
- 河川水質の基準値も示すと他の地域と比べることができてよい。
- 計画区域は市域全体だが、結論的には地下水を守る話になっているのではないか。
- 九頭竜川については、景観を含め水辺環境を保全し、生態系を守っていくということを書くのではないか。
- 全国で多発する洪水のことや、ダムの効果、利水、魚釣りや観光なども視点として必要なのではないか。
- 大野市は、利水、治水の観点も含めて下流の水も守るといような位置付けでもある。
- 保全活動を行う団体の管理を超えるような事への支援も施策として盛り込んではどうか。
- 下水道の整備と加入が大切なので、取り組みを進めていただきたい。

- 水をきれいにするということと、地下水を守っていくということの整合性を市民も行政も意識し、団結してやっていかなければならない。
- 水を再利用する、循環して使う、戻していくという施策を計画に盛り込むべきではないか。
- 水のがっこの発信力を高め、機能していけるよう取り組んでいってほしい。
- 改定された国の基本計画にも合致し、よくできている。
- 上流域、下流域の関連というものをもう少し記載するとよい。
- 次世代を担う人材の育成は重要だが、加えて、大野市がこれまで蓄積してきた知見を施策に反映していけるよう、専門性を持った職員の育成とそれを担当レベルで継承していく仕組みづくりが重要ではないか。
- 湧水を切り口として水循環全体を見るというのが大野市ならではの面白い特徴であり、湧水文化という単語をあえて無くす必要はないのではないか。
- 少雪の年が増える予想など、少なすぎる水や多すぎる水といった、変動が激化するという観点からも、健全な水循環を目指している大野の目標が適切か議論していくことが大切。
- 大野の財産である地下水が存在する地下の見えないダムと、気候変動への有用な適応策となる現実に存在するダムをどう上手に生かしていくのかが重要。

4. その他

- 今後の予定について説明
- 計画原案（案）についての意見提出について依頼

5. 閉 会